Human Developmental Research
2023.Vol.37，87-90

セルフコントロールの親子間伝達プロセスの領域固有性の検討

（中間報告）

大阪大学　後　藤　崇　志

Domain specificity of the parent-child transmission process of self-control (Progress report)

Osaka University,　GOTO, Takayuki

要　約

本研究の目的は，セルフコントロールの親子間伝達プロセスの領域固有性について検討することである。従来の研究から，ポジティブな養育行動や，自律性支援的な規律が子の領域一般的なセルフコントロールと関連することが示されている。本研究では，領域固有的に親子間の伝達を起こしうる媒介変数として，規範に着目する。第一の仮説として，親は自身がセルフコントロールを働かせることが得意な領域において，子にセルフコントロールを求めるような規範を作り出すと考えた。第二の仮説として，こうして親に作り出された規範は，子のその領域に特異的なセルフコントロール特性と関連すると考えた。本稿ではこれらの仮説を検討するための研究計画について報告する。

【キー・ワード】セルフコントロール，親子間伝達，規範

Abstract

The present research aims to investigate the domain specificity of the parent-child transmission process of self-control. Previous research has revealed that positive parentings and autonomy-supportive disciplines were positively associated to children's trait self-control in general. In the present research, we will focus on the norm as the mediating variables of the domain-specific parent-child transmission. First, we hypothesized that parents would create norms which enforce their children to perform self-control behaviors in the domain where they could perform well in a self-controlled manner. Second, we hypothesized that these norms would associate to their children's trait self-control in the specified domain. We report our research plan in this manuscript.

【Key words】　self-control, parent-child transmission, norm

問題と目的

セルフコントロールとは，2 つ以上の対立する動機づけの葛藤が経験される中で，欲望のような即時的・衝動的な動機づけではなく，目標追求のような長期的・規範的な動機づけを追求しようとするプロセスである（後藤, 2020）。セルフコントロールは食事や他者関係，経済行動，学業達成など多数の領域でのポジティブな結果の獲得と関わるプロセスとして知られる。また，児童期・青年期におけるセルフコントロールの個人差は，成人になってからの健康や経済状況をも予測するため（e.g., Mofitt et al., 2011），育成すべき特性のひとつとしても注目される。これまでの研究からは，セルフコントロールの個人差は親子間で類似することが示されており，遺伝的共通性を統制した上でも，親の作り出した養育環境を通した影響があることが示唆されている（Bridgett et al., 2015; Demange et al., 2021）。本研究では，親のセルフコントロール特性が子へと伝達されるプロセスに着目し，その領域固有性について検討を行う。

親や周囲の大人からの働きかけが子のセルフコントロール特性に影響する可能性は繰り返し示されてきた。養育行動や学校の規律とセルフコントロール特性の関係についてのメタ分析からは，温かさや信頼に代表されるようなポジティブな養育行動や，自律性を支援する学校の規律がセルフコントロール特性と正に関連することが示されている（Li et al., 2019; 2021）。こうした子の自律性を尊重するような働きかけは，自律的に長期的な利益の獲得を目指そうとするセルフコントロール特性を領域一般的に育む要因であると考えられる。

他方で，領域固有的にセルフコントロール特性に関連しうるものとして，規範の影響が考えられる。周囲の他者の規範は長期的な利益の獲得を目指そうとする行動に影響することが示されている（Doebel & Munakata, 2017; Goto, in press; Munakata et al., 2020）。文化比較研究からは，日本とアメリカではセルフコントロールに対して異なる規範的影響が生じている可能性を示唆する結果が得られている（Yanaoka et al., 2022）。したがって，規範がセルフコントロールに及ぼす影響はその規範の領域に特異的であることが考えられる。

以上を踏まえ，本研究では，親のセルフコントロール特性が子へと伝達されるプロセスについて，特に規範を介したものに着目し，その領域固有性について検討を行う。研究計画 1 では，児童期・青年期の子を持つ親を対象としたインターネット調査を行い，「親は自身がセルフコントロールの得意な領域について，子に対してもそのように振る舞うことを求める規範を作る」という仮説 1 の検討を行う予定である。研究計画 2 では，児童期・青年期の子とその親を対象とした親子調査を行い，仮説 1 を踏まえ，「親が作り出したある領域でのセルフコントロールを求める規範は，子のその領域でのセルフコントロール特性と関連する」という仮説 2 の検討を行う予定である。

研究計画 1

調査対象

児童期・青年期の子を持つ親 800 名程度からの回答を，インターネット調査会社の登録モニタから

募る。

調査方法

主に以下の 2 つから構成された調査に回答を求める

(1) 満足遅延目録 (Hoerger et al., 2011) セルフコントロールを構成する要素の一つである満足遅延特性について，食事・身体・社交・金銭・達成の 5 つの領域別に捉える心理尺度である。現在，著者らの研究グループで翻訳版の作成を進めている。

(2) 場面想定法を用いた規範測定 子どもが食事・身体・社交・金銭・達成のそれぞれの領域において，即時的な利益を追求し，長期的な利益を手放した場面を Weiss et al. (2021)を参考に作成し，提示する。回答者がその場面に遭遇した場合に，子どもに対して行動修正を求めるかを尋ねる。

研究計画 2

調査対象

児童期・青年期の子とその親 200 組程度からの回答を募る。

調査方法

親に対しては，研究計画 1 と同じ調査に回答を求める。子に対しては，満足遅延目録の表現を児童期・青年期用に修正したものに回答を求める。

引用文献

Bridgett, D. J., Burt, N. M., Edwards, E. S., & Deater-Deckard, K. (2015). Intergenerational transmission of self-regulation: A multidisciplinary review and integrative conceptual framework. *Psychological Bulletin*, 141, 602–654.

Demange, P.A., Malanchini, M., Mallard, T.T. et al. (2021) Investigating the genetic architecture of noncognitive skills using GWAS-by-subtraction. *Nature Genetics*, 53, 35–44.

Doebel, S., & Munakata, Y. (2018). Group influences on engaging self-control: Children delay gratification and value it more when their in-group delays and their out-group doesn't. *Psychological Science*, 29, 738–748.

後藤崇志 (2020) 「セルフコントロールが得意」とはどういうことなのか—「葛藤解決が得意」と「目標達成が得意」に分けた概念整理 心理学評論, 63, 129-144.

Goto, T. (in press). Normative information can induce biased choice toward delayed larger rewards in adulthood. *Asian Journal of Social Psychology*.

Hoerger, M., Quirk, S. W., & Weed, N. C. (2011). Development and validation of the Delaying Gratification Inventory. *Psychological Assessment*, 23, 725–738.

Li, J.-B., Bi, S.-S., Willems, Y. E., & Finkenauer, C. (2021). The association between school discipline and self-control from preschoolers to high school students: A three-level meta-analysis. *Review of Educational Research*, 91, 73-111.

Li, J.-B., Willems, Y. E., Stok, F. M., Deković, M., Bartels, M., & Finkenauer, C. (2019). Parenting and self-control across early to late adolescence: A three-level meta-analysis. *Perspectives on Psychological Science*, 14, 967-1005.

Moffitt, T. E., Arseneault, L., Belsky, D., Dickson, N., Hancox, R. J., Harrington, H., ... Caspi, A. (2011). A gradient of childhood self-control predicts health, wealth, and public safety. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 108, 2693–2698.

Munakata, Y., Yanaoka, K., Doebel, S., Guild, R. M., Michaelson, L. E., & Saito, S. (2020). Group influences on children's delay of gratification: Testing the roles of culture and personal connections. *Collabra: Psychology*, 6:1.

Weiss, A., Forstmann, M., & Burgmer, P. (2021). Moralizing mental states: The role of trait self-control and control perceptions. *Cognition*, 214, 104662

Yanaoka, K., Michaelson, L. E., Guild, R. M., Dostart, G., Yonehiro, J., Saito, S., & Munakata, Y. (2022). Cultures crossing: The power of habit in delaying gratification. *Psychological Science*, 37, 1172-1181.